

6年	国語	4月	単元名『詩を楽しもう』	1 / 2				
ねらい	詩の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。							
活用場面	他の春の詩を読み，春についてのイメージを膨らませる際に							
活用の仕方	春の河と小景異情の2つの詩を読み，書かれていることのイメージをはっきりさせることができるように，他の春の詩を読み比べる。							
参考図書	ドラえものの詩が大好きになる（水内喜久雄 真英社 7093）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型		表現型	

6年	国語	5月	単元名『漢字の形と音・意味』	2 / 2				
ねらい	漢字の由来，特質などについて理解することができる。							
活用場面	同じ部分をもつ漢字で，音も共通する言葉を図書を用いて調べる際に							
活用の仕方	教科書以外の漢字の由来，特質について図書で調べ，漢字を文や文章の中で使わせる。							
参考図書	小学生のまんが漢字辞典（P 43～P 56 学研 加納喜光 7312）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型	○	表現型	

6年	国語	5月	単元名『春のいぶき』	2 / 2				
ねらい	語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うことができる。							
活用場面	川上で感じる「春」を俳句や短歌の形式に表して書く際に							
活用の仕方	図書資料に掲載されている春についての言葉を味わい，自分の思い描く情景にぴったりの言葉を選択させる。							
参考図書	ねんてん先生の俳句の学校1（教育画劇 坪内稔典 5513） 和の行事えほん～春と夏の巻～（高野紀子 あすなる書房 7104） ことばの絵事典①季節・暦・くらしのことば（4879） はじめてであう俳句の本 春の句（2702）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型		表現型 ○	

6年	国語	6月	単元名『たのしみは』	1 / 3～3 / 3				
ねらい	構成や書き表し方などに着目して，短歌を整えることができる。							
活用場面	自分が思いえがいた情景について短歌に書き表す場面							
活用の仕方	子どもが何を書いたらよいかイメージがわからないとき，楽しそうにしている様々な絵を見て参考にする。							
参考図書	ことばがいっぱい言葉図鑑（五味太郎 偕成社 7901）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型		表現型 ○	

6年	国語	6月	単元名『文の組み立て』	2 / 2			
ねらい	文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。						
活用場面	文章中の主語と述語，修飾と被修飾の関係を理解できないとき						
活用の仕方	個別学習の際に理解できないときに，本で調べる。						
参考図書	小学生のまんが言葉のきまり辞典（学研 金田一秀穂 7310）						
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型		表現型

6年	国語	7月	単元名『夏のさかり』	2 / 2				
ねらい	語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うことができる。（							
活用場面	夏らしい様子を手紙で書く場面で							
活用の仕方	夏らしい様子について子どもがイメージをもてなかったり，自分の思い描く情景にぴったりの言葉が出てこないときに図書を活用する。							
参考図書	ねんてん先生の俳句の学校2（教育画劇 坪内稔典 5513） 和の行事えほん～春と夏の巻～（高野紀子 あすなろ書房 7104） ことばの絵事典①季節・暦・くらしのことば（4879）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型		表現型	○

6年	国語	9月	単元名『やまなし』	全 / 8			
ねらい	言葉や表現に対するイメージを広げながら，作品の世界を自分なりに捉えようとする ことができる。						
活用場面	導入・展開・終末						
活用の仕方	1 教科書を基に「やまなし」の学習を行う。 2 作者である宮沢賢治の作品を並行読書することで，作者の世界観を知りながら読書の幅を広げる。						
参考図書	・イッキによめる！小学生のための宮沢賢治（4967） ・雪わたり（2890） ・伝記絵本ライブラリー宮沢賢治（4961） ・やまなし（2559） ・双子の星（2555） ・宮沢賢治童話全集①～⑫（2291～2302） ・どんぐりと山猫（2556） ・月夜のでんしんばしら（2557） ・セロひきのゴーシュ（2884） ・注文の多い料理店（5431） ・銀河鉄道の夜（5432） ・よだなの星（2562）						
活用分類	興味・関心喚起型	○	理解型	○	発展型	○	表現型

6年	国語	10月	単元名『秋探し』	2 / 2				
ねらい	語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。							
活用場面	秋らしい様子を短歌や俳句に書く場面で							
活用の仕方	秋らしい様子について子どもがイメージをもてなかったり、自分の思い描く情景にぴったりの言葉が出てこないときに図書を活用する。							
参考図書	ねんてん先生の俳句の学校2（教育画劇 坪内稔典 5514） ことばの絵事典①季節・暦・くらしのことば（4879） はじめてであう俳句の本シリーズ（2702～2705） 俳句に親しもう（7317） 俳句・短歌をつくろう（7318）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型		表現型	○

6年	国語	11月	単元名『鳥獣戯画を読む』	5以降 / 11				
ねらい	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。							
活用場面	展開							
活用の仕方	1 「鳥獣戯画」を絵と文章を照らし合わせながら読む。 2 図書室の本などから日本の文化に書かれた文章を読み、表現の工夫について交流する。							
参考図書	・日本のくらし（8334） ・花火の大図鑑（8335） ・日本人の伝統的な食文化和食（8336）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型		表現型	

6年	国語	11月	単元名『古典芸能の世界』	1 / 1				
ねらい	古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。							
活用場面	古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりする活動の際に							
活用の仕方	歌舞伎や人形浄瑠璃の内容を図書資料を使って調べさせ、当時の人々の願いや思いを理解させる。							
参考図書	まんがでわかる日本の古典（学研まんが 吉野朋美 7315） かぶきの本（金森和子 日本芸術文化振興会 ※7類にあります） のう・きょうげんの本（氷川まりこ 日本芸術文化振興会 ※7類にあります） ぶんらくの本（金森和子 日本芸術文化振興会 ※7類にあります） 道成寺（8188） かたつむり（8337）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型		表現型	

6年	国語	1月	単元名『冬の訪れ』	2 / 2				
ねらい	語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。							
活用場面	積極的に季節を表す語彙を豊かにし、意図に応じて言葉を吟味しながら冬にまつわる手紙を書く場面で							
活用の仕方	冬らしい様子について子どもがイメージをもてなかったり、自分の思い描く情景にぴったりの言葉が出てこないときに図書を活用する。							
参考図書	ねんてん先生の俳句の学校2（教育画劇 坪内稔典 5514） はじめてであう俳句の本 冬の句（三谷鞍彦 あすなる書房 2705） ことばの絵事典①季節・暦・くらしのことば（4879）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型		表現型	○

6年	国語	1月	単元名『詩を朗読してしょうかいしよう』	2 / 2				
ねらい	自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読することができる。							
活用場面	教科書以外で自分の好きな詩を見つける場面で							
活用の仕方	たくさんの詩を読み味わい、自分のお気に入りの詩を選ぶ。							
参考図書	川上小詩集・ポエムコーナー全40巻 詩選集子どもへの詩の花束（8215）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型		発展型	○	表現型	

6年	国語	2月	単元名『今、私は、ぼくは』	4 / 7				
ねらい	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。							
活用場面	資料を使った効果的なスピーチをするためには、どんなポイントがあるのか調べる場面で							
活用の仕方	授業の前半で資料を使った効果的なスピーチをするためのポイントを探し、後半で自分のスピーチに生かして練習する。							
参考図書	発表がうまくなる（室木おすし 旺文社 8019）							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型		表現型	○

6年	国語	2月	単元名『メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために』	4 / 7				
ねらい	本文を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめ、意見や感想の交流を図りながら、自分の考えを広げることができる。							
活用場面	展開							
活用の仕方	1 2つの教材文を比べて読む。 2 「これからの社会をどう生きていくか」という課題について、筆者の考えを踏まえて自分の意見をまとめる際に、図書を活用する。							
参考図書	（社会の抱える問題や課題がまとめられている本や資料など） ・日本の問題・世界の問題（8339）							
活用分類	興味・関心喚起型	○	理解型	○	発展型	○	表現型	